

SHARP

シャープ社友会

# 栃木支部

2000/1

新春号 (第5号)

# 日光

## 栃木

発行責任者  
浦川正司



### 竜頭の滝

湯川が、中禅寺湖に注ぐ手前にあり幅一〇米、長さは二一〇米もある。激流が、岩を噛み砕く竜の頭のように見える事からこの名前が付いた。辰年にふさわしい題材です。

### タイトル

紺碧の空に、燦々と輝く日の光、緑豊かな大地。自然に恵まれた栃木をシンボルします。と、同時に当地を代表する観光名所『日光』を頭わします。

写真撮影 徳田 浩 氏 (会員番号 441)



**第十一回支部定期総会**  
 第十一回支部定期総会は、矢板市「仲よし」で五月三十日(日)午前十一時より、会員五十名の出席により開催された。  
 来賓としてAV事業本部赤穂谷本部長、島田総務部長、喜多村副参事。労組より中村副執行委員長を迎え、それぞれ会社の業務近況、労組活動の近況について、ご挨拶があった。  
 浦川支部長から、日頃の社友会支部活動への参画のお礼とともに、会員の積極的な行事への参加要望が



あり、議長選出ののち議事にはいった。  
 平成十年度活動・会計・監査報告、平成十一年度活動計画・予算案は議案書どうり承認された。役員改選では副支部長であった石塚 忠氏が会計監査に、新副支部長には仲谷輝郎、山崎一義の二名が、幹事兼任のまま選出され就任した。  
 総会終了後別室で懇親会に移り、会員相互の近況交換、趣味の話し、健康維持の秘訣など和気あいあいのうちに懇親を深め、午後二時すぎ散会した。

( 仲谷 記 )





### チャリティバザー大盛況

七月二十四日(土)、に開催された「99サマーフェスティバル」に例年通りチャリティバザーを出店し参加致しました。

今回で第五回目、会員から寄せられた品物一五六点、中でも第十七回ゴルフコンペ優勝者、住吉幸人さんから折り畳み自転車、他の方々も賞品・参加賞を全て寄付頂き花を添えた。

自転車は競売入札を行う等、趣向を凝らし社友会の存在PRと会場の盛り上げを図った。売上金と愛の募金で得た四万円を矢板市福祉協会へ寄付致しました。

ご協力に感謝!

(中村茂 記)

### 第一回歩こう会参加者の面々

十月十七日(日)、第一回歩こう会を地元の景勝地、県民の森から尚仁沢湧水(日本の名水百選)と溪流(栃木の自然百選)のコース約7kmを参加者八名で実施しました。穏やかな秋晴れに恵まれ自然を満喫し、親睦と心身のリフレッシュを図りました。

(中村茂 記)



### 社友会ゴルフ談義 ”くせに“

初心者は欲張り

道具(クラブ)は一杯もっているくせに、使う道具は少ない。

ボールは見えていないくせに(ヘッドアップ)、若いキャディのバスト、ヒップはきっちり観ている。

上級者は算数上手

調子が悪いと言っているくせに、天候(雨、風)、キャディのアドバイスを加算、引算し、スコアメイクする。

プレー費用は皆同じなくせに、会費分を引算し、きっちり商品で持ち帰る。(岡沢 記)



# 万徳円満



輝かしき新年をお祝い申し上げます  
社友会栃木支部の益々の発展と  
皆様のご健勝をご祈念申し上げます  
平成十二年元旦

栃木支部長  
浦川 正司

二〇〇〇年の初春を迎えて心新たに思考致して居ります。昨年を振り返り見ますと、夫れ夫れに色んな思い出が楽しく駆け巡る事と推察致します。

支部として振り返ると、残念ながら例年と相変わらず特筆すべき事柄はありません。でも、新しいクラブが出来ました。それは「歩こう会」と「パソコン同好会」です。まだ「歩こう会」は二回実施したのみですが、世話人の幹事さんが、色々お世話くださり参加者も喜んでいきます。冬場は各自で足腰を鍛えて春に備えています。

「パソコン」は、少し機械に慣れるのに時間を要して居ますが、生涯学習の道を頑張って努力して居ます。皆さんのご参加をお待ちしています。

昨年ご提案申し上げた、腕や知識を磨きあう同好会活動の交流の輪が広がりました。皆さんの参加で冬眠して居るクラブも、再起して楽しい社友会にして行きたく思考して居ます。

少し残念なことは、恒例秋の懇親旅行の参加者が極端に少なく企画された幹事さん並びにお世話下さりました地区幹事さんに、紙面をお借りしてお詫び申します。支部として懇親旅行の中止は、始めての事で残念でした。行事企画に就いては、今後も色々検討し取り

組みますが、百五十名近くおられます会員の皆さん方より、ご意見・要望等をお知らせ願ひ、楽しい社友会行事が開催され多数の皆様と懇談、談笑出来ればと、切望致して居ります。

私も年ですね、昨年の経過を辿るうちに何かしら反省が少し脱線して居ます。此処らで新年らしく筆の進みを変えて一言書き上げて見ます。

## 冒険を恐れぬ心

新しい年を迎えて、今年こそは頑張つて物事に立ち向かいたいと思つて居ます。今、誰もが、口にする言葉に老人問題があります。誰もが、自然に迎え通らねばならない道です。ただ考え方の持ち方と思ひます。老年は人生の総決算であります。

青年時代、壮年時代に何を第一にして生きて来たかが問われます。過去にそれなりの大きな事業をしたとしても、老年になると、昔の功績は何の役にも立たないものです。そこで今までの人生を振り返つて、冒険する心を持つことです。年金生活に安定を望むのではなく、何か仕事をする事です。仕事には色々あります。自分に出来る仕事なにか？

私は生涯学習の道を選び、シルバー大学校に入学二年間色々な事を学びました。学び教わつた事を地域に生かして行くことが大事な仕事ではないかと思ひ、地域ボランティアに参加しようと思ひました。いざ参加と決めたとき、自分に出来るのかと、瞬時とまどいを感じます。この時やれば出来ると心に言い聞かせ実行に踏み切る勇氣(冒険)が必要である。そして参加し、一つ一つの積み上げて参加した事に喜びを感じ人生の楽しみが生まれて来ると思ひます

## 【老いゆけよ、我と共に！最善はこれからだ！】

誰かが言つた言葉を思い出しました。

私達は常に冒険をして居るのだ。登山のときに冒険と言われる言葉が使われますがそうではなく、日常生活の中で自分には気づかず、何かしら行動している時にこそ冒険して居る事が生じている。

この言葉【冒険】を忘れた時こそ死である。  
恐れずに何事も挑戦【冒険】する心を持って残された人生を、

生きたい!!

# マレーシアの思い出

増田 善一

社友会の皆様お元気ですか、私も昨年一月二六日シャープを無事定年退職し、皆様の仲間に入れて戴き、早いもので約一ヶ年が過ぎ毎日を楽しんでおります。

では約十六年時計の針を逆戻りさせて、S R E C (シャープ・ロキシー・コーポレイション)での勤務時の事柄について述べたいと思います。今でこそ海外旅行が一般化し私が述べるまでもなく、マレーシア、シンガポール等については皆様の方が詳しいと思いますが、私の赴任時はマレーシアと言えば未開発国でジャングルの島と思われておりました。

まあ前置きはこの程度にしてエピソードを交えて述べてみたいと思います。清澄な払暁の空に町に点在するモスクから流れるコーランの朗唱が響き渡る朝の沐浴の水の音と鶏鳴に混じって、今度は観音菩薩を信仰する隣家(中国系マレー人)から読経が聞こえてくる。典型的な複合民族の国マレーシアの朝、私は毎日この音で目覚める。英国植民地支配からの歴史的経緯を経て、マレーシア系(五七%)中国系(三二%)インド系(十一%)を中心とする多民族からなり、食習慣の違いから仏教ヒンズウ教の牛肉、回教の豚といったタブーはあるもの各食文化が融けあい豊富な海産物とパイヤ、マンゴ、ドリアンを始めとする果物と相まって、ちよつとしたグルメの世

界が楽しめる。

ここで有名なドリアンは果物の王様で、私が住んでいたバトパハの町角で一個マレードル十ドル、これはワーカーの一日の賃金に匹敵し現地では高価な果物で購入時は非常に慎重な品定めで、あのくさい臭いを嗅ぐやら、我々日本人は不思議に思つてよく見物したものである。ドリアンにまつわる色々な話があるが、現地人に好きか嫌いかと聞くと百分百好きと言われた記憶がある。私自身とうとう好きに成れなかった。

また食べた後ですぐ酒を飲むと腹の中で発酵し腹がパンクして死ぬぞと言われた話、これは本当らしい。また夜男性が食べると寝返りが打てない話(なぜ打てないかは想像して下さい)これはウソ。また女房を質に入れてでもドリアンを買う等々、逸話は尽きないが、これぐらいにして次に進む。

服装についても困るのが女性でトウドンという頭巾を頭からすっぽり被り、バジユクルンと呼ばれる裾まで届くロングスカートの姿で出社してくる。ある日私が工場を回ると、トウドンを頭からすっぽり被ったワーカーが目立つので総務部長にトウドン着用者は採用するなと言ったら、真剣な顔で今の言葉は聞かなかった事にするから二度と言わないと言われ、なぜと聞くと、宗教警察に知れたら、貴方は



即刻国外退去にされると言われた。後日裾まで届くバジユクルンは、仕事の際、安全上問題がありズボン(パンツ)を制服化しようとした所、マレー系の村の長老五人がズボンだと体のシルエットが明確となり不謹慎極まりないと会社へ直談判に訪れ、総務部長がビビって導入は無理だと言つて来たので私も無理押しせず、とりあえず着用する人から始めるとスタートしたが今では全員が何の抵抗もなくズボンを着用して居る。

まだまだ書きたいが紙面の制約も有り先を急ぐが、私が六年間マレーシアで過ごせたのは、ゴルフが気楽に出来た事が大きいと思う。バトパハには九ホールのゴルフ場があり、休日には会社の仲間とプレーを楽しんだが、さすがマレーシアで八ホール目には野生のサルがおり、よくボールを持って行かれないか、心配したものである。

また身近で頻繁に起きるドロボー被害の話、また迷信が信じられ集団ヒステリーがよく起つた話等、話題が尽きないが、今では楽しい思い出であり貴重な体験として一生大切にしたいと思う。

最後に皆様方にはこれを読んで戴き少しでもマレーシアの理解を深めて戴ければ幸甚に思いますし今後皆様方の益々の御健勝と御活躍を祈念して筆を置きたいと思えます。

# 沖繩の旅

## 清海 他 来 雄

平成十一年二月二十日をもって、定年退職を機に、娘たちより思わぬ夫婦しての沖繩旅行のプレゼントがありました。現職時代よく二人して退職したら旅行しようと言っていた矢先のプレゼントに感激。結婚以来、旅行らしき旅行をしたことのない二人でしたので、娘たちは添乗員付きの沖繩旅行二泊三日を選んでくれました。

四月四日、福島空港よりおよそ三時間、機上から見えた、エメラルドグリーンに囲まれた島、そこは南国沖繩でした。僅か三時間足らずでこの様な環境が一変するとは、私達の想像をはるかに越えた景色がそこにありました。

沖繩の歴史にはいろいろある中で私達の脳裡に焼き付いているものは、あの世界大戦の戦場の地であったこと、今もある米軍基地問題をかかえた暗い印象しかなかった沖繩。しかし来て見て判ったことは、より良い沖繩を創造していく沖繩県民の明るい心と元気な顔が、いたるところで私達を迎えてくれました。滞在時間の短い旅ですから、隅から隅まで見るに至りませんが、プレゼントされたコースを元気に旅することが出来ました。旅の初日は、那覇空港着が午後三時であった為、平和の礎 摩文仁の丘、ひめゆりの塔でありました。正に戦場の歴史をそこに見て平和



の有り難さを実感しました。沖繩の花と言えば、ハイビスカスですが、私達の生活ではこのハイビスカスの花は鉢植のもので楽しんでおられますが、ここでは垣根にハイビスカスが植え込まれていて二人で驚くやら羨ましいやらでした。二日目は、首里城、万座毛、いぶらぎビーチ、沖繩記念公園、名護パイン園、そして共栄ガラス工房を見学して参りましたが、特に印象に残ったところは、沖繩記念公園内にあります熱帯ドリームセンターで亜熱帯植物が館内一杯にあり色とりどりの花の競演がくり広がり、時間のたつのを忘れる思いでした。旅の三日目、沖繩最後の日です。朝から

快晴、琉球村、東南植物楽園と見てまわりましたが、ここでも昨日に続き、ガーデニングに興味をもって私達に大いに感動を与えてくれました。

今回の旅を通して、花と緑の競演の中で身も心も自然体にごせた三日間でした。今年度は、世界の首脳が一堂に集い世界の平和を話し合う沖繩サミットが開催されます。この次に来る時は、また新しい沖繩を発見出来ることを楽しみにしております。

初めての沖繩旅行で大いにリフレッシュ出来ました。又明日から定年一年生、元気に第二の人生を生きていきます。

**沖繩旅行 万歳!!**



# LETS TENNIS



藤 森 常 祐

私とテニスとの出会いは、四十九年前高校に入って僅か三ヶ月ぐらいラケットを振っただけで定年になる迄ラケットにも触れる事も無く仕事一筋に過ごしました。

定年後何か毎日出来る事と始めたのがテニスなのです。一時は、ゴルフと考えたのですが年金生活では毎日は無理、ゴルフのプレー費が不況で安く成ったとは言えゴルフプレー代、三回分のお金が有れば、何と一年間のテニスを楽しむ事が可能なのです。平成十年には、冬に雪がよく降りましたが、205日も運動公園に行きテニスのプレーをしていきます。何故こんなにテニスにはまってしまったのか？全くテニス馬鹿を越え、テニス気違いに成った様です。テニスボールを思い切り打つ気持ちの良さ、快音、楽しさは奥の深いものが有ります。会社勤めの時土日には、風邪をひき延びてしまつて居ましたが今は、風邪をひくことなく元氣、元氣の毎日です。

定年後家で濡れ落ち葉状態になりかけている諸君。毎日お勤めのつもりで、運動公園にきてみませんか！金で買えない健康が得られるのではと思います。定年後テニスを始めた人は沢山いらつしやいます。私も定年後始めたと言えます。人間の生き方は、他人に迷惑を掛けずに馬鹿、気違いに成ることと思います。プレー後汗をかき、温泉で汗を流し冷えたビールを飲み大の字になって昼寝をする、全く極楽ですぞ。試合して負けてもゴルフ程腹が立たず、悔しいと言う気持ちは起こりません。こんな会話が青空の下、テニスコートで交わされて居ます…

サーブでモタモタしている…「早く入れてよ」  
サーブが入らなかつたら…「そつちじゃない、こつちに入れるよ」  
早いサーブが入つたら…「イヤーンもつと優しいたま(球)を入れてよ」

深いサーブが入つたら…「そんなに深く入れないでよ」  
これらはベットの会話ではありません。誤解の無いようお願いいたします。

テニスの相手大半は女性です。年齢はX歳、X歳で、色々な話が聞かれます。皆さんのお付き合ひは、無理なく、斑無くコートだけが秘訣です。森林浴をし大きな声を出し馬鹿なことを言ひストレスを発散し健康は間違いなしです。皆さんもテニス馬鹿になつてみませんか？新しい世界が開けますよ。テニス馬鹿に、成つてチャレンジしてみようと思われ方は、是非ご一報ください。お待ちしております。

☎ 〇二八七 四三 一三三五

## カイロ交通事情

西村 光二



エジプトと言えばピラミッドに代表される古代遺跡が有名ですが今日はカイロの交通事情を紹介いたします。

駐在期間中は自分で自動車を運転していましたが、とにかく交通マナーは自動車も歩行者もデータラメ。信号機は交通巡査が手動で操作して居り、その上路上には警官が出ているが運転手も歩行者も殆ど無視して通つて居ます。巡査が通行を止めると、止められた方の運転手は警笛を鳴らして、早くこちらを通せと催促します。道路のセンターラインは殆ど消えており、又たとえはつきりと書いて有つてもこんなものは全く無視で、二車線の所を三、四台並んで走つたり、割り込みは当たり前。道路の両側はどこでも車が駐車しており、それも二重三重が当たり前で、四重に駐車して居る交差点すら有ります。タクシーは何処でも突然止まつて客を乗降させるので後ろを走るときは要注意です。又バスなどは走りながら乗客を乗降させて居ます。こんな状態なので一方通行の所でも、平気で反対方向に入つて来ますが警官も全く警告しませんが、一方、歩行者もたいしたもの、車が引つ切りなしに通つて居るのに、直前を悠々と横断して、運転して居るとはつとさせられることはしょつちゅうです。

しかし、不思議なことに意外と交通事故を目撃することは少なく、感心させられます。日本人にしか無いと思つて居たあうんの呼吸がエジプト人にも有るものと見えます。しかしこんなに汚く、交通道德のデータラメな国は初めてです。

# 続「栃木県とシャープと私」

二五〇 春山 丈夫

## ◇大寛町の家

小二の時、宇都宮の四条町の家から大寛町の家へ転居している。五〇年後のある日、当時の記憶を再生しながら、母校・西校を訪れてみた。建物も、校門の場所も違っていたが、二宮尊徳の像と校庭の桜とがわずかに面影を止めていた。四条町の家の付近は茶畑が続いていたが、戦災のせいか、すっかり建て替えられて見る影もない。

材木町の通りを覚えていた。郵便局に「参十銭也」の小遣いを月々預けに行った。

「あるある」の貯金通帳だったと思う。国道を渡ると小さな池があつて、ゲンゴロウ・ミズスマシを取るのに夢中になった。これが八幡山公園の広場に続いている。小

学生には紙芝居の楽しみの場所、青年団の相撲大会、祭り太鼓の練習をする。

「デンデンデンデン、ワカマッサン」雷の街にふさわしく、ゴロゴロと伝わってくる快いリズムである。

今はどうなっているのだろうか？

さて、大寛町の家である。材木町の通りを越えて、第一女子高校（旧女学校）の正門から二筋ほど下がった所に、見覚えのある三角屋根の洋間の家がまだ残っていた！

松の木の門構えもそのまま、裏の竹藪はなかつたが、庭のヒマラヤ杉が遥かに屋根根を越していた。

角の家は車屋さんだった。その前で縮れ毛の妹が遊んでいると、

「アッ！ テンブルちゃん、カワイイ」と、女学生が声をかけて通る。カッチャンという面倒見のよい子がいて

「カッチャン数の子、ニシンの子」と、はしゃいだものだから、今は牛乳屋さんになっていて、それらしき人の気配はなかつた。名残を惜しんでカメラのシャッターを切った。

## ◇栃木工場建設の頃

生産技術の仕事柄、能率推進会議、品質会議、P S R委員会と、栃木工場へたびたび出張した。私が総合企画室にいた頃の、建設委員会のレイアウト構想は、およそ次の様であったと思う。

- ① 道路幅を三〇米と広くとり、一〇tトラックが停滞しない様にする。
- ② 入口を狭く出口を広く、纏まった場所を空け増設など変化に対応。

社友会本部より投稿戴きました。古い方はよく存じ上げて居ると思いますが、春山氏は生産技術関係で活躍された方です。栃木会報「日光」を見られて懐かしく、少年時代を過ごされた栃木の思い出を寄せられました。

当支部会報も広く社友会に浸透し皆さんに愛読されて居ます。今後他他の支部より投稿が参りましたら順次掲載して行きたいと思ひます。

(浦川 正司 記)

③ 一方通行の原則。すべての運搬をコンベアでつなぐ。運搬車は一切使わず、運搬車は見本品・不具合品に限定する。

④ 最初からパレット返しのコンベアを設計する。パレットは傾斜（当時のシャーシは大きく角度必要）とフラットと両用にする。

⑤ 出荷場所は、トラックの高さに合わせたプラットフォームをつくる。

ここからみる景観はまさに雄大である。主峰・男体山が日光国立公園の連山を従えて、パノラマのように望見できる。

今思えば、まことに画期的な出来事であった。このポリシーは、のちの米国・S M C Aの建設時にも打ち出され、続く英国・S U K Mほか、多くの海外工場に受け継がれているのである。国産テレビ第一号の開発者・笹尾研究部長（故人）のご指導のもと、服部さん（故人）以下、建設委員各位のご苦労がここに実った。シャープ生産システムは、新しいスタートを切ったのである。

V E活動も盛んで、ある日の稲見常務（故人）との会話である。「春山さん、ブイイはもう古い、今は



春山丈夫氏のアドレス

〒639-1101  
大和郡山市下三橋町446-18  
TEL 0743-53-3708

ブイエーでなくちゃ」  
「VEとVAと、反対じゃないですか？  
VA(価値分析)からVE(価値工学)へと発展したのですから…」  
「そう、その通り。今はブイエーの時代なのだから」「…」  
「イ」と「エ」の発音の違いでもチャンと話は通じていた。稲見さんが宇都宮のご出身だったとは、後でわかった話である。

◇那須野原の景観

購買日より『和』第二六号(昭和四四年八月発行)にこう書いています。  
「下野(しもつけ)の国へ私・下野が資材担当で着任しました」  
当工場は緑とハイウエイと青空、そしてまた涼風と日光国立公園に囲まれ、特に夏季は環境絶佳の地にあります。一〇万坪の

用地に最新設備を完備した近代的な建物は、近在の人(はもとより、引きも切らぬ内外の見学者の称賛の的となっており、とりわけ関東におけるシャープイメーჯ高揚の拠点として、重要な役割を果たしております。：前任の青木部長のあとを受け、同時に、名称も資材部と改め、購買(広田課長)と資材関係業務を一本化し、品質・納期・価格に対する責任体制を明確にしました。協力会社と共に相互信頼、相互繁栄を期して参ります。：

私が生産技術センターにいたとき、那須野原の東北からの玄関口、白河の関まで足をのぼした。関東タツミの新人社員の教育である。先代・川本翁は早川電機の副社長をされた方である。工場巡回の時、杵村次長(故人)を従えられて、いろいろと改善指示をされる。

口さがない私たち若者は、オウマさんというあだ名をもじって、「それ、第一レースがはじまった！」と、仲間たちにサインをおくる。整理整頓に厳しい方であった。「メーカーにホコリがつくのは技術者の心が曇っているのだヨ」  
川本語録よろしく、それから三〇年経って「5S」を説く立場になった。ともども、川本社長(故人)・佐伯さんと往時を回顧する。

◇定年後のシャープ訪問

定年後、やり残しの仕事を感じてハノー

バメッセ視察団に参加した。電子館をみたら、シャープ電子手帳がグッドデザインに輝いていた。予備知識なしで見つけた喜びは大きい。イギリスでは一人旅でレキサムを訪問した。五年前の、皇太子浩宮お手植えのOHKの木が見事に育ち、SUKMの発展の歴史を物語っていた。北峯さん以下の日本スタッフに大歓迎頂いた。その後、同氏とはバンコクのSATLでも再会している。インドネシアのシャープヤソインタ訪問の途次であった。ここでは白黒テレビを集中生産していた。VTRの最盛期に栃木工場を訪ねた。市村さんに限なくご案内頂いた。

また、父の部隊の戦友会が宇都宮で開催された。軍道は道路幅が二倍になって桜並木が無くなり、連隊の跡地は公営住宅に変わっていた。日光の華厳の滝は、地震で岩石の崩れはあったが、轟々とした音の響きは少年期の頃と少しも変わっていないかった。塩原温泉の懇親会では、父に連れて貰った頃を思い出して軍歌を歌っていた。

この度、栃木支部報の発刊を知った。創刊号にはなつかしい顔が一杯、いろいろと回想が駆け巡る。市村さんも北峯さんも、すでに社友会員になられたと知った。皆さん方のご健勝をお祈りしたい。

浦川支部長のご依頼で思い出すままに寄稿した。乱筆乱文の向きは平にご容赦いただきたくと思う。

【完】

# 六十の手習い「弓道」奮闘記

池 渕 康 彦

「人生に必要なものは、愛と希望と少しばかりのお金」というのは、チャップリンの言葉らしいが、もう一つ「健康」をつけ加える必要があると思う。現役はもちろんのこと引退した我々も、健康に恵まれてこそ皆と楽しくゴルフが出来るのだから。自分のことで振り返って見ると、約十年前気管支喘息を患って、息切れがして歩くのも困難になったのに比べて、治療の結果何とか病気をコントロールできるようになり、「一病息災」で過ごせる有難さを感じる今日この頃である。さて、そのゴルフも暑い夏・寒い冬にはとても快適な遊びとは言えないし、春・秋でも雨が降ればやりたくないし、またいつでも一人でも簡単に出来ないという問題もある。

そこで、ゴルフ以外に何か体を動かすことをやろうと考えていたところ、水泳は市営プールへ行けば一人で自由にやれるし、他にもないかと思っていたら昨年四月、市の広報に弓道教室の生徒募集の記事があったので、これは面白そうだと申込んだ。私の住んでいる大田原市は那須与一の出身地であり、「与一の里」を看板にしているだけに弓道が盛んであり、また栃木県全体としても他府県よりは弓道が盛んなように思われる。

弓道を始め見て、ゴルフと弓道の共通点にいくつか気づき、弓道の練習がゴルフにも良い結果をもたらすことを発見した。共通点の第一は、いずれも目標に向かって体の左側が相對すること、そして二番目は両足でどっしりと大地に立って、下半身を安定させることが必要だということである。第一番目の共通点からは、目標をきっちり定めることでショットは良かったのに方向がぶれてしまったというようなミスがなくなってきたこと、また二番目の共通点からは、スタンスが安定することによって体の正面でボールを打つことが出来て、ショットが良くなるということである。

さて、ゴルフにはハンデキャップがあるが、弓道では段級があり、審査によって認定（認許といっている）される仕組みになっている。審査の基準は、弓を射る形（ゴルフではフォームに相当する）と的中であり、三段では二十八メートル離れた三十六センチの的に当たらないと合格しない。現在の私の腕前は、ゴルフで言えば、ラウンド百二十位のレベルと思われるので、これから推察いただきたい。

弓道のもう一つのポイントとして呼吸がある。「長生き」というのは「長息」でもある。短く忙しい呼吸は短命と言われている。

深い大きな呼吸で、動作に合わせた息合いによって喘息という持病を持っている私にとって健康にも良いのではないかと思っている。

弓道を始め新しい人とのつながりも出来、これからもゴルフと弓道と両方をやりながら互いに助け合ってレベルが上がれば良いなと思いつつ、更に健康増進にもなればと欲張っています。



# 奥の細道替え玉事件

大田原あたりで、馬を返した芭蕉と曾良は、その日のうちに黒羽の余瀬に着いている。翠桃と言う人をたずねた。大変多くの人で二人を歓迎したことが奥の細道の本文から感じとれる。ここに二週間も滞在している。翠桃の兄は浄法寺図書高勝で俳号は秋鴉（しゅうあ、また桃雪）で実父鹿子畑高明が引責辞職して江戸の親戚に寄寓していたことがあり、そのときに芭蕉と知り合ったらしい。その後帰藩を許されて黒羽に戻ったのは、延宝七年一六七九である。

現在は黒羽城跡と大雄寺の中間地点に芭蕉の館という奥の細道の常設テーマ館がある。桃雪亭あとのあたりは散歩道（芭蕉の道）が整備されている。桃雪亭跡近くは、木々が茂り、桃雪の子孫の方が営まれているペンションがある。

松尾芭蕉の「奥の細道」は古くから多くの注釈書が出版されている。謎めいた話にことかかない。例えば、芭蕉が幕府の隠密で、その筋の金をもらって外様の動向を俳人の風狂を装って調査していたというのである。そうでもないかと大旅行の費用は捻出できないはずだというのである。また松尾芭蕉が忍術で有名な伊賀ものであることも手伝わっているらしい。芭蕉が死んだとき、曾良は幕府巡国使の随員の仕事で葬儀に間に合わなかったのも話に輪をかける。当時の職業人としての俳諧師がどれほどの収入があったのか調べるのは極めて難しいだろう。ところが、元禄期、前句付で、点銭をとって佳作に賞品をあたえることに人気があつまり、宗匠と称する人の門前は市をなす有り様だった。蕉門以外のたいのの宗匠はこれに関わっていた。簡単な付句で射幸心をあおりし、まいには句を付けなくても、賞品がもらえる、完全な賭博になってしまい、身を誤るものが出て、賭博として当局の取締の布令が出た。俳諧の底辺が非常に広がっていたことがわかる。芭蕉には関東・東北・関西に名のあつる弟子だけでも四百名以上いた。無名の弟子を入れると二千名とも三千名ともいわれる。奥の細道行脚の中で、大小二十回以上にも及ぶ句会がその地方の有力者を交えて催されている。なかには地方の豪商もいた。



上野 敦

芭蕉と曾良の旅は、こういった人々に支えられてのものであった。

さて話は奥の細道本にもどるが、徳間書店から川尻徹著「芭蕉隠れキリシタンの暗号」という本が出ている。このかなり長い話の粗筋をいうのは憚るが、水戸光圀（みつくくに水戸黄門）は曾良の替玉だといわれている。つまり芭蕉と行をともしたのは曾良ではなく光圀だといわれる。水戸で光圀を演じていたのは曾良だといわれる。光圀が旅にでる理由の第一は現況視察である。第二は当時キリスト教の禁書扱いだった『ヨハネ黙示録』を手に入れることである。第三の目的は山伏や産鉄集団の地下組織を支配下に置くことであつたといわれる。さて丁度奥の細道行脚のころ、光圀は黒羽の近くで一つの事業を進めていた。（光圀は一六五七明暦二年「大日本史」の編纂に着手したのであるが）一六七四延宝四年小口村（栃木県馬頭町小口）の庄屋大金重貞は湯津上（ゆづかみ）村の草むらに横たわっていた石碑の話の旅僧から聞いてこれを丹念に調べ、那須の国造碑（なすのくにのみやつこ）であることをつきとめた。場所は黒羽の浄法寺桃雪亭の南一里半ほどのところである。一六七六年大金重貞はこの碑文を筆写し、自著の「那須記」に写した。一六八二天和三年に光圀が馬頭村に宿泊したとき、石碑の話聞き注目した。貞亨四年一六八七年光圀が馬頭村を再訪、那須国造碑堂の建立を計画し、重貞を現地責任者とした。一六九一元禄四年に国造碑堂の建設が着手され、重貞は光圀の儒臣佐宗淳（通称すけさん）の指示を受けながら建立の指揮をとる。四月国造碑堂の建立に関する事業終了。六月光圀、馬頭に向き重貞の案内で碑堂を参詣。これで判るように、奥の細道行は一六八九年であり、この事を取り込み中で、曾良と光圀の替玉では、双方から発覚してしまうはずで、この話はなかった。しかしこの本はよくできていて、替玉を信じている人もいるらしい。

# 行きは良い良い……山路規生

少し前の話になりますが、あまり古くない内にまとめてみました。

平成十年の八月二六〜二七日に、カミさんと一泊二日のバス旅行に出掛けました。行き先は、上高地から黒部・立山アルペンルートで、前々からは非行きたいと思っていたところです。

旅行会社は、新聞の折り込み広告で、皆さんもよくご存知と思いますがタビックス・ジャパンの白河支店です。この白河支店であったことが、あとあとの話に大きな関わりをもって来るのです。

バスは、福島の各地でお客さんに乗せて、最後に私達二人が六時半頃に西那須野I・Cで乗せてもらい、再びいや三度目か四度目か分かりませんが、I・Cを入り南に向かいました。天気は、小雨模様でしたが段々と明るくなってきて喜んでいました。最後の乗車だったので、席は一番前になり高いところからの何時もとは一味違う眺めを楽しみました。イヤー、乗せてもらうのは実に楽なものです。

バスは、国道五〇号から関越・上信越自動車道を、休憩する時間も惜しんで車内で弁当を食べながら先ずは上高地へ。

上高地では、薄日も射すぐらいになってきました。さすが、名の通った観光地だけあって、夏休みの最後を楽しむ人達で、

河童橋の上も大賑わいで写真を撮るのも一苦労でした。四〇年位前に一度来て以来で、大変懐かしい思いをしました。一時間ほどの観光で又バスに乗り、小さい釜トンネル（昨年九月、大雨でトンネルの出口が土砂崩れで通れなくなり、観光客が歩いてトンネルを通るといふ事がありました。）を抜け、

長野オリンピックのジャンプ台を左に見ながら、やがて白馬村のホテルに到着。二日目は、本命の黒部・立山アルペンルートであるが、空はどんよりと曇天模様。北アルプスの下のトンネルをトローリーバスで抜けると、そこは雪国ならぬ黒四ダムの世界。写真やテレビで見慣れているものの、初めて見るダムは物凄い迫力。そのころには、雨が降りだし然も土砂降りの一歩手前。霞に煙る墨絵の様な山々を写真に撮りながら、ダムの上を次のケーブルカーの乗場へと急ぐ。続いて、ロープウェイで一気に五〇〇メートルを登って大観峰へ。そこから、あの黒四ダムも遙か下に小さい。

今度は、立山の下のトンネルをバスで室堂へ。そして高原バスとケーブルカーを乗り継いで立山駅に降り先回りして待つてくれたバスに乗りいよいよ帰途に。

雨に降られたものの、念願のコースを廻れて大満足でした。紅葉の頃は、さぞかし見事だろうと思いました。

さて、下山途中の売店のテレビで見て、那須地方が大雨で被害が出ているらしいという話がチラホラ出だしたが、経験豊かなバスガイドさんの上手な話に聴き入ったり、難所の親不知・子不知に見入ったりで、誰も気にしている様子はない。途中、休憩のサービスイリアで見るテレビで、被害の大きさが分かるにつれ段々と深刻になり、車内でもテレビやラジオのニュースに夢中で、

バスガイドさんの話しどころではなくなる。若い女性添乗員も、事務所に電話して情報を集めると、川が氾濫して福島から栃木に入れないらしいと状況がはつきりして来る。

バスは、やがて新潟から福島に入り郡山I・Cで一般道路に出て、昨日乗車した場所や自宅の近くで、お客さんを降ろし始める。須賀川／白河と順々に降り、最後に残ったのは黒羽の女性三人組と合わせて五人となる。その頃には、時間も遅く既に新幹線も終わり、栃木に入る手段が無くなるが、我々としては、旅行会社に任せるしかない訳で、大船に乗ったつもりでいる。

ホテルを探してくれたが何処も満杯で取れないとのこと。止むを得ず最後の手段として、白河の中央公民館に既に避難されている地元の方の中に入れてもらえるようにお願いしたとのこと。



勿論、我々には何の問題もなく了解する。 公民館に着いたときは、もう十一時を回っていたと思うが、既に皆さんが休まれており玄関で住所／氏名を記入してソロリソロリと中に入れてもらう。

多分、市役所の方々と思いますが、旅行帰りの「よそ者」にも拘わらず、たまたま空いていた応接間に入れてくれたり、上等の毛布を貸して下さるなど大変親切にして頂き有り難く思いました。間もなく旅行会社の責任者の方がパンをもって挨拶に来られました。

『添乗員さん、よく頑張ってくれましたよ』と、礼の様な慰め様なことを言う。

椅子やソファアでは寝にくかったが、避難して来た人が連れて来たらしい犬が夜通し鳴いて、よく眠れなかったとカミさんがボヤいていたが、それも知らないところをみると結構眠った様である。昨夜、差し入れてもらったパンをお世話になった人に手渡しして、せめてもの感謝の気持ちを表して公民館を後にする。

翌朝、白河駅から新幹線のようにやく栃木入りすることが出来たが、添乗員は我々が新幹線に乗るところまで見届けていました。ヤレヤレとホッとしたことでしょう。

新幹線の中から、川の水嵩はかなり減っていたが、流木などが引っ掛かって荒れた様子が良く分かった。那須塩原駅から家までがまた大変で、何時もは気のつかない小さな川が増水して通れないため、ぐるーと大回りしてやっとたどり着くことが出来ました。

願っても出来ない珍しい体験までついて、一泊二日が二泊三日のバス旅行となりました。

余談になりますが、もしも栃木の五人が参加していなければ、添乗員は苦勞する事もなく早く家に帰れて足を伸ばして眠れたであろうし、又同じ旅行会社でも宇都宮支店であったらルートも違っていて、何の問題もなくスムーズに帰れたであろうと思う。しかし、添乗員にとっては、貴重な経験を積んだ事と思う。

以前、沖繩旅行したとき、自動車のキーを入れたままの荷物を送ってしまった、出発日の集合場所に家から迎えが来るまで、一月の寒空のなか添乗員も一緒に待っていてくれました。

どうか 皆さんもご注意を！

## 若き日『二十四時の哀歌』



中村 義雄

初めて入社したときは 朝はひとりで目が覚めた

一と月・二た月過ぎるころ だんだん起床が遅くなり

三月・四月とたつうちに お名残り惜しいや わがふとん

別れる時の辛いこと 六時半には立ち上がり

めしも食えずに放り出され 駅に向かって突進す

一番電車に乗り遅れ 二番電車は満員で

三番電車は回送車 四番電車に飛び乗って

天王寺・美章園・南田辺 更衣室へと駆け込んで

制服、制帽に身をかため いつもの朝礼終わったら

きのうの仕事の繰り返し 十二時だけを楽しみに

朝の四時間夢中なり めしを食べば用はない

あとは帰りを待つばかり 五時のサイレンで飛び出して

道頓堀へとかけつけた 五時・六時は しらぬまに

七時・八時と過ぎたけど 彼女はいつこうに現れぬ

いらいらしながら九時・十時 終電車も行っちゃった

空にや満月照るばかり・・・ あゝ我が青春日記より



## クラブ・同好会のページ

### 歩こう会



中村 茂

車社会とか高齢化社会の今日、人間にとって最高の健康法は歩くことであると言われて居り、1日1万歩を目標にウォーキングに取り組んでいる方も多く居られます。私もその1人でありウォーキング暦、約10年になります。その間ハイキングで四季折々の自然の野山遊歩を楽しむ等、ここ1年余りはシルバー大学同好者とのトレッキング、矢板市山岳会の登山教室（中高年者の登山）にも積極的に参加して居りますが大変な人気であります。何れも男性はもとより、女性の参画意識の高いことに驚きを感じます。

我々社友会の、歩こう会も9月に発足し第1回は10月（県民の森と尚仁沢糖水）、第2回は11月（八方ヶ原と高原山剣が峰）の2回は地元の景勝地を選び、現地集合で実施して来ました。穏やかな秋晴れのもとで、親睦と心身のリフレッシュに、この上ない心地よさで大変好評でありました。参加者は8名から始まり回を重ねるごとに増えつつあります。

第2回目からは、奥様方の参加の呼びかけを行っており、同好者の輪を広め和やかな会とし、参加者が20名を越せばバスもチャーター出来て、日帰り行程であっても行動範囲が広まり、2カ月に1回実施すれば色々変わった景勝地が選定出来て、楽しさがより高まるものと確信致しますので、奮って参加下さるよう期待して居ります。

### ゴルフ同好会



岡沢 幸男

ゴルフを通した自己の健康維持と相互親睦を目的とした「社友会ゴルフ同好会」を結成し活動中です。（一部会報2号にて紹介済）

内容は、「定例コンペの開催—平日利用」、「会員同志のプライベートプレー」等、日頃不足気味の運動量とチャレンジ精神の充足を兼ね、池越え、山登り、森林浴有り、スコアへのこだわり等、奥の深いゴルフの醍醐味を和気合々と楽しんでいます。

#### 現在の活動状況

同好会員数・・・※26名（運動神経平均年齢＝40歳代、平成11年10月現在）

定例コンペの開催・・・※1回／2ヶ月（5～6回／年間、ハンディキャップ戦）

- 平日プレー（プレー代が安い、ゆつたりプレー）
- 湯つたり（入浴）後、パーティ、表彰式で盛り上げ  
優勝杯、順位賞、副賞 贈呈等、”シャベリ放題”
- 優勝者は、次回コンペの（副）幹事を担当、

会員同志の誘い合い・・・※プライベートプレー（2～3回／月）

#### 同好会員募集

栃木社友会員（会員の奥さんも可）でゴルフに興味の有る方、一緒に楽しみませんか、入会を歓迎します。（入会金??・・・無料）

希望者は（幹事）岡沢（TEL 0287-37-2099）マデご一報下さい。

# 新入会員の紹介

- ① 会員番号
- ② 氏名
- ③ 生年月日
- ④ 住所
- ⑤ 電話番号

《メッセージ》



① 1402  
② 朝倉 紘一  
③ 昭和14. 4. 12

入社以来、商品デザイン開発を担当させて頂き、栃木でも十年余りお世話になりました。趣味は絵を描く事ですが、何事にも好奇心を持ち、これからの人生をゆつくり楽しみたいと思っています。どうか宜敷お願いします。



① 1425  
② 岡本興二郎  
③ 昭和14. 5. 21

昭和四十八年映像部門の栃木工場への集約に伴い赴任し本年五月二十一日無事定年を迎えられた事に感謝しています。これからは健康に留意し趣味を生かして楽しい人生にしたいと考えています。何卒諸先輩のご教示の程宜敷お願いします。



① 1426  
② 古市正昭  
③ 昭和14. 5. 28

五月に定年を迎え、社友会に入会させて頂きました。四十三年栃木工場へ赴任、思い返せば当時は何時か又大阪へ……今では住めば都で、緑の町・矢板で山へ川へ温泉を楽しみにしています。諸先輩を始め会員の皆様には今後ともご指導の程宜敷お願いします。



① 1431  
② 西村光二  
③ 昭和14. 6. 2

入社以来テレビの生産に係りてきましたが、昭和四十八年に矢板に転勤してからは延べ十五年半コロンビア、マレーシア、エジプト、リビアの4カ国の工場で海外勤務を楽しみ、特に最後の七年間はリストラの心配もなく海外で勤務しました。



① 1461  
② 松山清俊  
③ 昭和14. 7. 19

光陰矢の如しの譬えにも有る通り、入社以来約四十年間、過ぎてしまえば早いものである。今後の人生計画を今模索中であるが、幸い雑趣味が多いので、これらをうまくミックスさせて生き甲斐の糧としたいと思う今日この頃である。



① 1492  
② 平 正徳  
③ 昭和14. 9. 1

入社以来三十年間経理部一筋に歩んで参りましたが、九月二日を以て、定年退職を迎え社友会に入会できました事は皆様の温かいご指導の賜と深く感謝いたしております。



① 1500  
② 馬場洋光  
③ 昭和14. 9. 22

去る、九月二十二日四十年間に亘る会社生活を無事終えました。社内外の出逢った方々に感謝しております。  
第二の人生のスタートとして、社友会に入らせて頂きました。皆様と一緒に若い気持ちで一年一年、いい年を重ねていきたいと思っております。



① 1525  
② 岡部隆一  
③ 昭和14. 11. 18

矢板にカラーテレビ工場が展開して早くも三十一年が経過し我が人生の半分を栃木で過ごした事になります。入社以来一貫して技術関係に従事し定年を迎えましたが、今日社友会に入会し諸先輩と旧交を温めながら活動に参加したいと思っております。  
趣味…野球・ゴルフ。  
宜敷お願致します。

### 喜寿・古希 お目出度う御座います

会員番号	御祝い	お名前	御祝いの日
283	古希	西脇仁平	平成11年 1月10日
343	古希	高橋 実	平成11年 3月11日
298	古希	吉田満良	平成11年 4月 1日
303	古希	小野崎 文夫	平成11年 6月20日
311	古希	佐藤徳雄	平成11年 9月 5日
347	古希	関 栄三	平成11年12月 1日
375	喜寿	室井勘二	平成11年 6月20日

### 編集後記

▼当号は、西暦二〇〇〇年の新年を祝う新春号でもあり、編集会議で審議の上、縁起を担いで四号を欠番とし、五号に致しました。

★コンピュータY2K問題も大事に至らず、先ずはご同慶の至り。と言った処ですが、マスコミが話題造りの為、面白可笑しく騒ぎ立てたと言った面もある様で、不愉快さが残ります。最近のマスコミは、「ハメルーンの笛吹」よろしく、大衆を踊らす事に一生懸命で、私たちは踊らされぬ様、用心が必要と感しました。

●ユネスコの世界遺産に日光の二社一寺が登録されました。名を同じくする小誌『日光』も、名前負けせぬよう、更に磨きを掛けるべく、支部会員皆様方の絶大なるご支援ご協力をお願いする次第です。

◆当、小冊子制作に就きましても、特定のメンバーの機器・技能だけでなく、支部としての設備を用意の上、支部会員各位のパソコンノウハウを結集して、レベルの向上を図るべき、第二段階にあると考えられますので、会員皆様方の強力なご指導、ご提案を宜敷お願い致します。

(編集子一同)